

山口型放牧による耕作放棄地の解消

(山口県山口市)

取組項目

飼養管理	良質堆肥の生産	堆肥の広域流通	国産飼料生産・利用	有機畜産	その他(※)
○			○		

(※) 畜産GAP、農場HACCP、労働環境の改善、消費者理解の醸成 等該当するものを記入

<取組主体について>

- 所在地：山口県山口市
- HP等：(県HP) <https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a17600/yamaguchigata/yamaguchigata.html>
((公社)山口県畜産振興協会HP) <https://yamaguchi-lin.jp/>



耕作放棄地放牧の様子

<取組について>

○ 概要

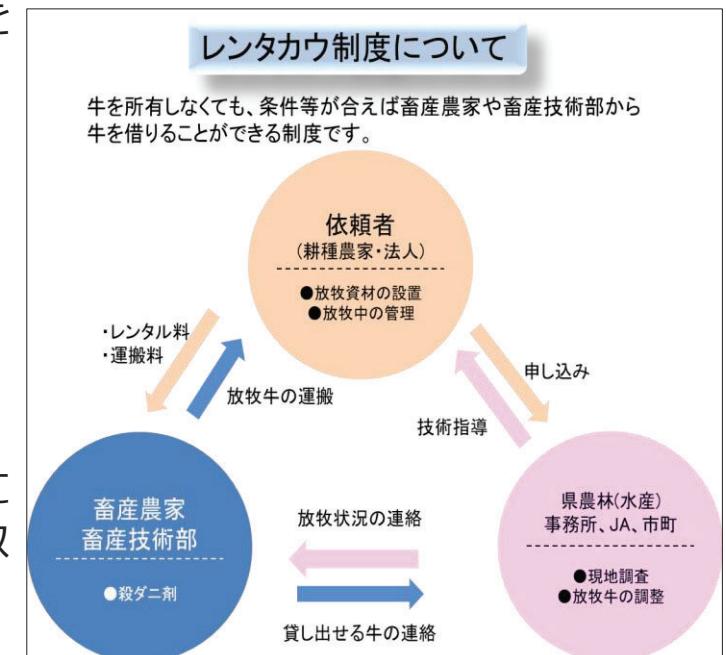
- 「山口型放牧」とは、転作田や耕作放棄地などに電気牧柵等を設置して牛を放牧する形態のことである。肉用牛経営の省力化や農地保全、獣害の減少も確認されている。
- 平成25年に「山口型放牧あとう協議会」が設立されて以降、農事組合法人が畜産農家から牛を借りて農地を管理する取組が定着しており、簡易に農地を管理する方法として山口型放牧が一役買っている。
- 山口県農林総合技術センター畜産技術部では、「いつでも、どこでも、だれでもできる」をモットーに「山口型放牧マニュアル」を作成し、行政(県の普及組織)と一体となって放牧の取組を推進するとともに、脱柵への不安解消やさらなる省力化を目指して先進技術を活用した「省力的監視技術」を開発中。
- 令和3年度には、下関地域で県の「レンタカウ制度」を活用し、地域住民と一緒に獣害対策を開始。

○ 成果

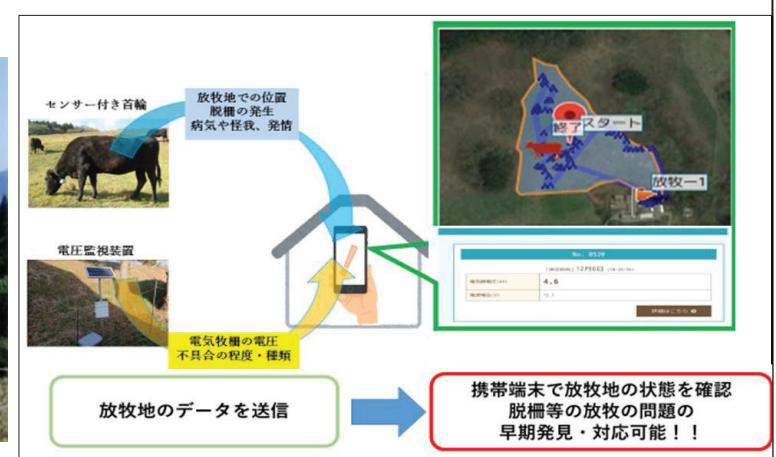
- 令和3年度の放牧面積は296ha、放牧頭数は1,169頭。
- 山口市の取組として、毎年4月には、飼料作物の生育確認や放牧牛の選定、放牧期間に関する打合せなどが行われるなど、円滑な耕畜連携が図られている。

○ 今後の展望

- 畜産農家の減少や高齢化により、放牧面積は減少傾向にあるが、先進技術等を積極的に活用しながら放牧への取組を推進していきたい。



放牧前後の様子



省力的監視技術の開発